

平成 30 年度 第 1 回花巻城跡調査保存検討委員会会議録

日時 平成 31 年 1 月 17 日 (木) 14 時～

場所 花巻市石鳥谷総合支所 3 階 3-2・3-3・3-4 会議室

出席委員 高橋信雄委員、関豊委員、熊谷常正委員、室野秀文委員、中村良幸委員
(全委員出席)

オブザーバー 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課 高橋 祐 文化財調査員

報道関係者 なし

傍聴者 1 名

事務局 花巻市教育委員会 佐藤 勝 教育長、布臺 一郎 教育部長
文化財課 平野 克則 文化財課長、村田 豊隆 文化財課課長補佐
佐藤 幸泰 埋蔵文化財係長、菊池 賢 主査
酒井 宗孝 主任専門員
花巻市博物館 小田桐 睦弥 主事(学芸員)、高橋 静歩 主事(学芸員)

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員長及び副委員長の選任
- 4 協 議
 - (1) 平成 30 年度 花巻城跡内容確認調査の結果について
 - (2) 平成 31 年度 花巻城跡内容確認調査の実施計画案について
- 5 そ の 他
- 6 閉 会

1 開 会

(司会：平野課長) お疲れ様です。委員の皆様には、大変お忙しいところお集まりいただき

まして、ありがとうございます。本日の進行を務めます、文化財課長の平野克則といたします。宜しくお願いします。

会議に入ります前に、委員の皆様へお詫びいたします。委員の任期ですけれども、昨年の4月1日からお願いを致しておりましたけれども、本来ですと委嘱状を昨年の春先にお渡しするべきところ、年を越した本日になったこととお詫び致します。

委嘱状は、皆様のお席に本日の資料と共に置いてございますのでご確認願います。なお、委嘱の期間ですが、平成32年3月31日までとしておりますので宜しくお願い致します。

次に、出席しております花巻市教育委員会の職員を紹介いたします。

教育長 佐藤 勝 (さとう まさる)

教育部長 布臺 一郎 (ふだい いちろう)

文化財課 課長 平野 克則 (ひらの かつのり)

文化財課 課長補佐 村田 豊隆 (むらた とよたか)

文化財課 埋蔵文化財係長 佐藤 幸泰 (さとう ゆきひろ)

文化財課 主査 菊池 賢 (きくち さとし)

文化財課 主任専門員 酒井 宗孝 (さかい むねたか)

博物館 主事 小田桐 睦弥 (おだぎり むつみ)

博物館 主事 高橋 静歩 (たかはし しずほ)

それでは、平成30年度第1回花巻城跡調査保存検討委員会を開会いたします。はじめに花巻市教育委員会教育長 佐藤 勝 よりご挨拶申し上げます。

2 あいさつ

(佐藤教育長) 先ほどは委嘱の件で大変失礼申し上げました。宜しくお願いいたします。今日、忙しいところ、そして寒く足元の悪いところご出席いただきありがとうございます。この調査保存検討委員会も、通して6回目という開催回数となりました。前回は、昨年度継続して実施いたしました南御蔵の調査結果についてご報告申し上げまして、今年の調査計画についてご意見を賜りました。今回は調査計画で3年目ということになって、今年度から始めました本丸跡の内容確認調査の結果についてご報告申し上げますとともに、来年度継続して行う本丸跡の調査計画についてご意見を賜ればと思っております。

今年、岩手県の埋文で「万丁目遺跡」を調査して、中世の居館跡が検出され、そのことについて市民の方々に非常に関心も高まってきた。そういう時期のようにも思います。花巻城跡の調査計画、確認調査は当初の予定で5年計画。来年度の調査結果を踏まえて、再来年には保存計画案を取りまとめる予定にはなっておりますけれども、こういった計画全体についてもご意見を賜ればと思いますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。

3 委員長及び副委員長の選任

(平野課長) 委員長及び副委員長の選任ですが、選任は本委員会設置要綱第4条第1項で委員の互選により定める、とされております。初めに委員長の選任をお願いします。いかがでしょうか。

(関委員) 留任でおねがいたします。

(平野課長) 留任という声がありました。留任ということで宜しいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(平野課長) それでは委員長には、高橋信雄委員にお願いすることになりました。次に副委員長の選任をお願いします。

(関委員) 同じく留任をお願いします。

(「異議なし」の声あり)

(平野課長) 留任という声がありましたけれども、留任ということでよろしいでしょうか。それでは、副委員長には熊谷常正委員にお願いすることとなりました。委員長に選任されました高橋委員は、委員長の席へご移動願います。

ここで委員長の高橋委員からご挨拶をお願いいたします。

(高橋委員長) 引き続き委員長ということですが、皆様のご協力を得て務めて参ります。昨年、一昨年の調査で南御蔵の非常に大きな成果を挙げています。今年度もまた非常に良い成果を挙げたというふうに、現地に何回か行きまして見えています。現地説明会にも市民の方が多数駆けつけてくれまして、非常に関心が高いということで、花巻にとって花巻城というのが重要だというのが、文化財関係者だけではなく色んなところに浸透しているような気がしますので、この保存検討委員会の我々も、もうちょっと色んな知恵を出しながら、より良い保存計画案ができるように頑張りたいと思いますので、皆様是非とも宜しくお願いしたいと思います。

4 協 議

(1) 平成 30 年度 花巻城跡内容確認調査の結果について

(平野課長) ありがとうございました。それでは、次第4の協議に入ります。ここからは委員会設置要綱 第4条第2項により議長を委員長をお願いいたします。

(高橋委員長) それでは、協議に入りたいと思います。(1)「平成 30 年度 花巻城跡内容確認調査の結果について」、ご報告いただきたいと思います。

※(事務局から説明) 資料No.3

(高橋委員長) ただいまの報告、花巻城跡の内容確認調査の結果について詳しくお話をいただきました。委員の方々からご意見・質問ありましたら、お願いしたいと思います。

(熊谷副委員長) さっきの写真だけでは分からなかったのですが、美濃の灰釉陶器の破片ですけれども、磨耗なんかはしてませんか。

(菊池主査) 少し釉薬が剥げ気味になっているような感じに見えるところは、ざらつくところか。内面の方にはありました。

(熊谷副委員長) 原位置にあったものであるということは間違いない？

(菊池主査) 掘っていて出てきたという状況でしかないのですけれども。

(熊谷副委員長) 通常、流されてきて磨耗したような破片ではないわけですね。

(菊池主査) そういう状況ではないです。割れ口とか、しっかりとしているとみています。

(熊谷副委員長) それから、確認させていただきたいのですが、深掘りの断面です。IIa層の「白色粘土を含む」とあります。この白色粘土はブロック状に入っているのですか、それとも入り方どういようなことでしょうか。

(菊池主査) ブロックは、実際大きい塊ではありません。1cmもないような小さいブロックとして少しあるという様相です。

(熊谷副委員長) それからもう一つ確認なのですが、追加資料の二之丸の南御蔵の部分の基本層序との関係の中で、南御蔵南部の最下層のIV層。自然堆積層であって、白色粘土層層だと。10YR8/1 なのに対して、本丸部分の基盤層でありますIV層は、にぶい黄橙色粘土であると。南御蔵北部の所と南部でも色が違っていますが、これは共通の段丘の基盤層とみていい層なのではないでしょうか。これは中位段丘ですね？

(酒井専門員) いいえ、低位段丘です。

(熊谷副委員長) 低位段丘。

(酒井専門員) ですから、段丘構成礫の上に堆積する粘土層です。

(熊谷副委員長) 要するに、段丘構成物としてみていい層だね。今回発見されたところでの土量を考えると、堀を掘削した時の土の可能性はないだろうか。そこで白色粘土が入っているのではないかというふうに考えることはできませんか、どうでしょう。

(室野委員) あれだけ大規模な堀を掘っていますから、当然地山の土は相当上がっているはずで、おっしゃるようにそれが花巻城の築城の時の造成土に、本丸の造成土なり二之丸の造成土に使われていると。結局、稗貫氏の段階の城を全く覆ってしまう格好ですね。そういう造成がなされているというふうに考えていいかと思います。いま、本丸とか二之丸、三之丸に残っている土塁というのは、大きな堀を掘った割には土量が少な過ぎますので、ですからその他の土を曲輪の造成に使ったというふうに考えれば、大体その理屈が合ってくると思います。

(熊谷副委員長) IIc層・IIb層に、段丘礫層の起源と思われる礫がいっぱい入ってくるというのは、そういった意味で段丘基盤層であるIV層を削ったその上位層にあった段丘礫層の起源の石が入ってきているのじゃないかと。しかし、大きすぎるね、規模がね。

(室野委員) 広いですね。

(熊谷副委員長) 考えて見ると、花巻城全体が盛土。だって、段丘構成層をある程度整地した上で整地しているのであれば…。

(高橋委員長) 問題は、あそこの堀がいつの時期に掘られたかということ。勿論あそこの土橋だって絶対に新しい。鳥谷ヶ崎城の時期ではなくて花巻城の時期だから。そうするとあの堀も、あそこ(本丸を)囲む堀も花巻城の時に掘削して、という話かと。

(室野委員) 稗貫氏の段階の堀なんかを規模拡大する際にも、恐らく相当の土は出てくると思いますね。もう少し小さい堀で稗貫氏の段階で造っていたと仮定すれば、特に市役所の続きにある[濁御堀]は巨大な堀ですので、あれを段々広げたのか、元々広かったのか分かりませんが、それぞれ曲輪の堀を拡張していったとすれば、相当な土量が出ますので、土塁だけではなくて曲輪の嵩上げにも使ったということになるのじゃないでしょうか。

(熊谷副委員長) 低位段丘面だとね、ちょっと分からないのですけれども、例えば整地層の中に、さっき白色粘土と言いましたけれども、例えば村崎野パミスの加減とかね、そう

いったのはどうですか。分からないよね？ 何度かやられていて、上のほうが削られて、ほんとうに礫層に近い部分のところだけ引っ張り上げて盛ったのか。

(高橋委員長) これから土量のことは、ちょっと考えなきゃならない。そうすると、いかにすごい工事だったかというあたりが、多分出てくると思うから。

(熊谷副委員長) もう一つ。再仕置のときには、ここは(大工事を)ガンガンやったってというような記録はあるのですか。奥州仕置の時。

(中村委員) 奥州仕置は関係無い。奥州仕置の後に、やっぱり改造していると思うので、天正19年に。天正18年には廃絶といいますか、稗貫氏が追い払われているから、19年に入ってきてから改装していることは確かだと思うのですけれども。その時にはまだ水堀ではないだろうと思うので、多分空堀のまま、その後多分大規模にあれだけの水が入る幅にして、深さにしてということだと思います。あの土塁、二之丸の土塁に3期に渡る盛土があるので、やっぱりかなりの(工事をしている) …。

(熊谷副委員長) あの中にも白色粘土が入っている。

(中村委員) そう、だから3期に渡って盛っているんで、やはり1期・2期ではなくてかなり何回か手を加えてあれだけのものになっていると思うので、この整地層の中でもやはり2期ぐらいには、少なくとも。2～3期には盛っているのではないかなと思うのです。

(熊谷副委員長) すごいね。あと、雪隠がみつからなかった理由は何なのでしょう。

(中村委員) ずれているのではないですか。いちばん最初の2図を見ているとかなりずれた状態で検討しているんで。(計画時の想定では)これが東下がりになりますよね。それが、ほぼ東西になっているのと、やはり若干どちらかにずれているのではないですか。

(熊谷副委員長) ただ、さっきの3つの集石で、土間との関係からすると、菊池さんが言うようにあそこの所しか(ないのでは) …。

(中村委員) あの部分に本当に嵌まるかどうかというのは、まだ分かりませんが。南北にずれても合うところがあるので。やはり次の調査で上手く横の(東西の)柱列を当ててみるしかないのではないかと。

(関委員) 被せなくてもいいから、距離とってみて(調査したらどうか)。

(中村委員) ここは、柱の部分だけだから、もうちょっと間隔を。次の間を見ないと何とも言えない。

(関委員) 断定できないものね。

(室野委員) これは、恐らくですね、私が思うには2号集石・3号集石・4号集石、それから6号集石・8号集石。これに囲まれる部分というのが、絵図で見ると「御末」と書いてある部屋。北側に床の間がある部屋ですね。このあたりに来そうな感じにも見えるんですね。そうしてくると、土間との問題も出てきて上手く合わさってこなかったりするんです。あるいは、どうでしょうか、さっきの菊池さんの説明にありました3個の西側の方の18・17・16の集石のところに合わせても、別のところで合わない柱が出てくる感じでありますので、これは、ここの一部屋分だけでも出して、あと長い柱列のところを何とかして当てて、その上で見当をつけたほうが間違いないのではないかと思います。それから、あの粘土の入った土坑です。二つありますが、これもだいたい柱筋に載ってくるころにあるので、いちばん可能性があるのは礎石を抜いた跡に粘土を詰めた。比較的新しいかもしれません。明治とか大正とか、場合によっては戦後とか。その頃に公園にする際に邪魔になった石を抜いて、大きな穴になったのでそこで子供たちが足を挫かないように粘土を入れて埋めた、という可能性が一番高いような気がします。ですから、これも柱の位置を示す遺構であると考えたほうが無難だろうと思います。ですから、同じ建物でも抜いた時期が違えば別の土が入るわけです。粘土が入ったり、そうでなかったりということはありますので、問題はその平面位置をきちんと押さえておくこと。建物の輪郭みたいなものと、ある程度面積を広げれば（遺構が）出てきて、絵図に合うところを探せると思います。

(高橋委員長) 土間を。土間が出ていないわけだから、土間をきちんと押さえれば、建物が意外ときちんと分かる。

(熊谷副委員長) 建物の中の土間というのは、ちゃんと「にがり」入れて叩き締めると。

(酒井専門員) ただですね、この土間は、明かり取りのための土間でございまして、どちらかという中庭です。

(関委員) 中庭、屋根が無いのですか。

(熊谷副委員長) 特段の加工は無いのですね。

(酒井専門員) その可能性がございます。

(熊谷副委員長) やっぱりトイレ（雪隠）だと思います。

(酒井専門員) 室野委員にお願いしたいのですが。先ほど、礎石を取った時期によって、その後の検出状況が変わるとのお話しでした。この18号集石・17号集石・16号集石の検出状況は、土が入っている。一方、6号集石・8号集石・2号集石は、まともにその礎が

検出される。ですから、そこに時間差・時期差があるのかと現場では考えていました。

(室野委員) その可能性も、もちろんあると思います。

(酒井専門員) あるけれども、礎石を取った時期によっては見方が変わってくる。

(室野委員) 礎石の下の根石の入れ方についても、時代ごとの特徴があると思います。それを、後になって礎石を抜いてしまった跡の、そこが穴になって困るのであれば、当然粘土を入れるか石を入れるなりすると思います。その辺の違いもあるだろうと思います。

(酒井専門員) はい、ありがとうございます。

(高橋委員長) その他、何かございませんか。

(関委員) この地上に露出しているのは、本当に礎石なのですか？東側の方の。

(室野委員) 見た感じは礎石のような石ですよ。ただ、動いていたかどうかは分かりません。

(関委員) たまたま残っていたと。

(熊谷副委員長) 礎石であるならば、ボーリングしてみれば根石がある。上に載っているかどうか。

(高橋委員長) それでは、(1)の平成30年度花巻城跡内容確認調査の結果については、とりあえずこれで終わって、次の(2)平成31年度花巻城跡内容確認調査の実施計画案についてお願いしたいと思います。

(2) 平成31年度 花巻城跡内容確認調査の実施計画案について

※(事務局から説明) 資料No.4

(高橋委員長) (2)のただいまの計画案について、ということですが。

(熊谷副委員長) 雪隠はどうするか。雪隠ばかりにこだわっているようだけれども。雪隠が確実な遺構として捉えることはできるわけですかね。

(室野委員) 便槽があるはずです。

(熊谷副委員長) 便槽がある。やはり、建物の縁辺とか雨落ちとかよりは、便槽を確認するというのが…。

(室野委員) ええ、そうですね。

(熊谷副委員長) それで、もう1個あれば軸線がはっきりしますよね。1個だけではだめですよ。

(室野委員) 例えば、この今の計画案の図面でいきますと、南北方向に今年入れたトレンチのすぐ北西側に「御雪隠」と書いてあるところがございます。例えばそのあたりに(調査区を設定する)ですね。あともう一つの雪隠は、どちらでしたか。

(熊谷副委員長) 飛び地のところにあるのではないかと。

(室野委員) そこで出てこなかったということで、この北西部の雪隠は狙ったほうがいいような気がしますね。あとは、東西方向に長く延ばす予定のトレンチ。これは結構柱が集中して並んでいるようですので、あの絵図がずれていなければですね。それから延長に礎石らしい石が顔を出しているので、できればこのトレンチをもう少し東へ延ばせませんか。(建物の) 端は押さえたほうがいいような気がしますので、それあたりを中心に考えて。あと、南北方向のトレンチについても、その(建物の) 南端を押さえるくらいまで延ばせるなら、という感じで見られれば大分位置が分かり易くなるのかなと思いますけれども。いかがでしょうか。

(中村委員) もう少し東側にずらす。全体をずらしてやれば、縦軸(南北軸)が(検出できる)。横軸(東西軸)は確かに出てくるけれども。縦の軸が、1本(調査予定区域内に入って)見えているけれども、もう一つこの狭い所(部屋)があります。その囲みができれば完全に部屋と分かるので、もう少し東の方向にずらして、それで廊下のほうにぶつかるように。全体がそういう形になって。細い間の部屋がありますが、土間の横の東側に。そこに当てて2列が細く検出できれば、そこは確実に確認できるのではないですか。

(関委員) 西側に単独で、あの計画案のような小さいトレンチを一つ入れても、あれが(御殿の隅)に引っかかるかどうか分かりませんね。

(熊谷副委員長) 端ですね。端よりは雪隠だと思う。

(関委員) 大変になるとは思いますけれどもね。

(中村委員) 少しぐらい離れても。南北が少しぐらい離れても、柱列が続いていれば、それはそれで確認できるので。問題は、その縦の狭い部屋が確認できるのであれば、それに越したことは無いと。その2列がかかれば、もうそこは確実に東西南北が合うので。御殿の位置を出そうするのであれば、それが一番無難なような気がする。

(熊谷副委員長) あと一つは、老婆心ながら申し上げますと、保存計画を作る際に、文化年間の屋敷はともかくとして、第Ⅰ期・Ⅱ期の段階で、少なくとも今年度の調査による限り大規模な盛土工事—我々の想像を超えるような大規模な盛土工事が行われていたと。そし

て、鳥谷ヶ崎城の時期なのか—少なくとも今年度の状況からすると16世紀末～17世紀初め位までの年代を持つようなところを把握すること。要するに本丸御殿だけではなくて、その保存計画の中で花巻城の歴史的な経緯—折角さっき説明があったように、プレ時期はあったとしたとしても、第何期・第何期とやっていくなかで、古い時期の根拠をもうちょっと確認しておく必要はないかということですよ。そうすると、集石遺構などが集中するここから外れるあたりで、ちょっと下げていけるような所がないかと。要するに、Ⅲ層を打ち抜いてⅣ層まで出せるような所がないかと。その間で整地層とか、あるいは上手くいけば遺物が出てくるかもしれないし、ある程度この本丸御殿の造成範囲というものを確認するための—グリッドでいいと思うけれども、断面を見るだけだから。どこかにやれないかと。贅沢を言って考えると。

(室野委員) 御殿の位置がほぼ確定してくれば、あの、入れられる所とそうでない所っていうのが見えてくると思いますので、そうすれば効率のいいところで深掘りのトレンチ入れて、本丸のある程度の造成状況の把握はできるのでは。

(熊谷副委員長) 今年度、本丸御殿の西側の所、西御門に近い所を深掘りして、さっきの説明にあったような層序断面を確認できた。とするならば、東側のどこか。あるいは南御蔵との関わりからすると南東部といいますか、この〔御料理之間〕の南側のあたりとかどこかに入れて、そこまで整地が徹底して行われているということを確認する。まさに鳥谷ヶ崎城時代からの歴史的変遷を確認するための。グリッドでいいと思うので。それをやはり保存計画の中にちゃんと、そこで謳っていけるのではないかなと思うのですが、どうでしょうか。その、最初の段階の瑞興寺も…。

(高橋委員長) 私はちょっと無理なような気がするな、この来年の調査では。

(熊谷副委員長) 来年で調査は終わりなので、そうすると少なくとも第Ⅱ期。政直の時代まで遡るのはともかくとも、やっぱり北松斎のあたりの時期を推定できるような、大規模な屋敷普請の痕跡を。この際に堀ができていて、そしてその堀を掘削した土を使って花巻城の基盤が造成された、という根拠を示すグリッドを1ヶ所か2ヶ所。折角、今年の西端の成果が、1個だけでは生きてこないのではないかと思うのですけれどね。

(中村委員) 雪隠を調査したら、土間の南側を？

(熊谷副委員長) 風呂の方にするか、入り口の方の東側に飛んで一つ…。以前から低位段丘の縁辺の自然地形を使って、古代に遡るような拠点的な施設があった、そうしたところの

延長上にこの花巻城が出てくるのではないかというのが一鳥谷ヶ崎神社の境内まで含めての大きな範囲のなかで、花巻城の位置づけの中で、やはりこの近世の花巻城の基盤となるような、これだけの堀に囲まれた城を造成した時の痕跡をやはり一つ捉まえておく。

(高橋委員長) 基本的には本丸はあそこの土橋、それから石垣も含めて、ある時期に大規模なことをやっていることは間違いない訳だから、その規模を今言ったような形でどこかに掘れば、あの西側でも分かった訳だから、東側でも同じような整地層が出てきたら、あそこ全体を整地して…だから鳥谷ヶ崎城を継承してというよりも新たな花巻城を作ったという証明になるような気がするのだよね。

(熊谷副委員長) そういった意味で花巻城に関する新たな知見を盛り込んだ保存計画が策定できるのではないかなと。こう言うては何ですが、本丸御殿だけを護るのではなくて、その造成された花巻城のそれなりに歴史的な経過も含めて、その全体をどうやっていくかという保存計画だから、それに見合うような。最後の調査なので、少なくともその本丸御殿以前の造成根拠を示すようなところを、今年度の成果を踏まえてもう一ヶ所やれば、もう確実になるのではないのでしょうかね。

(中村委員) そうしたら、L字形のトレンチの東西の飛ばしのグリッドを作っては。

(関委員) サブトレぐらいの幅でもいいのではないかな。

(熊谷副委員長) 何も無いようなところで。

(中村委員) 例えば1×1mとか。要するに深掘りできればいいと。

(熊谷副委員長) 要するに、断面図が欲しい。ただし、場合によっては、東になればなるほど下がっていく可能性がある。

(関委員) 溝状に、トレンチ状に、少しの長さを。

(中村委員) それでは1×2mでは。

(高橋委員長) 意図するところはそういうことなのですが、それが1×1mでも、それを考慮していただくということでいかがでしょうか。

(菊池主査) これは予算の関係で275㎡で積算しているのですが、面積的には増やすと芝生の復旧など色々関わってきますので、面積的には変えたくないのが正直なところです。調査予定内に散策路が入っていましたが、散策路の部分を掘ってもあまり意味の無い可能性があるので、ここを飛ばして別なところでやってみると面積的には整合性はとれるような感じですが。

(熊谷副委員長) あるいは散策路の下を掘るのはどうか。

(中村委員) それこそ復旧すごく大変です。

(熊谷副委員長) かえって復旧するの大変ですか。

(佐藤教育長) 飛ばしたらいいでしょう。

(中村委員) 散策路部分は、40 cmか50 cmくらい下まで攪乱といいますか、掘り込んでいるようですから、その分を飛ばして、南か南東側に持ってくるという手は、面積的に合わせるならばあります。グリッドを一つ飛ばして、升目一つ飛ばして、それを東の下に持っていく。

(熊谷副委員長) 上手い具合に雪隠に当たれば、その断面が観察できる可能性がある。そうすると3ヶ所で押さえられる。

(関委員) 確かに、雪隠の壁面にね。

(高橋委員長) いずれ意図するところは、そういう造成のことをやはりきちんとしてもらうということ。その他ございませんか。

(熊谷副委員長) 先ほども申し上げましたように、再来年の保存計画を策定していくわけですが、結構大きな範囲を対象としなければいけないと思いますので、できるだけ単年度で計画策定よりは、少し早めに。ある意味大変かもしれませんが、発掘と平行する形で管理計画の何か、保存計画の叩き台みたいなものを検討に着手なさったほうがいいのではないかなと思います。大体の遺跡・史跡などで保存管理計画を作る時には、やはり2年とかぐらい掛けてますので、そういったタイムスパンの中で考えていただければと思います。

(高橋委員長) その他、何かありますでしょうか。無ければ、以上をもちまして協議(1)(2)を終了させていただきます。

4 その他

(平野課長) ありがとうございます。〔5 その他〕でございますけれども、事務局では特に準備しておりませんが、委員の皆様から何かございますでしょうか。

5 閉 会

(平野課長) 長時間に渡りましてありがとうございました。以上をもちまして平成30年度第1回花巻城跡調査保存検討委員会を閉会いたします。大変お疲れさまでした。